

Title	中国の「一带一路」政策に関する研究の国際的動向
Author(s)	大谷, 順子
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2022, 48, p. 1-14
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86858
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

中国の「一帯一路」政策に関する研究の国際的動向

大 谷 順 子

目 次

1. はじめに
2. 研究方法
3. 中国において英語論文を増産する背景
4. 一帯一路のもとに取り上げられる研究テーマに関する分析と考察
5. おわりに

中国の「一带一路」政策に関する研究の国際的動向

大谷 順子

2017年6月、日中社会学会第29回全国大会を大阪大学で会長として開催し、主催校企画シンポジウム「中国シルクロードにおける社会変容」において「シルクロードの開発政策「一带一路」イニシアティブ」という報告を行った。学会誌『日中社会学研究』第25号2017年10月に特集論文の1本として掲載された。「一带一路」に関するメディア報道に加えて、学術論文もにわかに発表されはじめた。本稿の目的は、「一带一路」イニシアティブに関する学術研究の国際的な傾向をレビューすることである。世界がコロナ禍に入るまでの2018年から2019年の間に発表された34の英語の論文を分析した。研究対象地域の範囲はユーラシアからアフリカに及ぶ。分野としては、社会学、政策科学、人類学、政治経済などがある。これらの英語で国際誌に掲載され、「一带一路」政策は、政治経済的にも話題になっているだけでなく、学術研究の分野でも大きな注目を集めている。

【キーワード】 一带一路、シルクロード、国際的動向

1. はじめに

2013年に中国の習近平国家主席が中央アジア4か国を歴訪の際に、カザフスタンにおいて、アジアと欧州の協力関係を深めていく目的で、新たな連携モデルを構築する考えがあることを「一带一路」イニシアティブとして発表した。「一带一路」イニシアティブは地域発展の潮流に大きな影響を与えるものとして、国際報道や政治経済界からの注目を浴びることとなった。改めて歴史の脚光を浴びるようになったシルクロード地域における関連する動向を考察し、2017年6月、日中社会学会第29回大会開催校主催シンポジウムにおいて発表した。その報告を『日中社会学研究』第25号(2017)において「シルクロードの開発政策「一带一路」イニシアティブ」(特集論文)として寄稿した(大谷, 2017)。その後、メディアによる国際報道や現地報告だけではなく、学術論文としても、ユーラシア大陸のみならずアフリカまで広範囲な地域からの報告やこのテーマを扱った論考が、社会学、政策学、人類学、政治経済などの人文社会学系の各分野から国際ジャーナルにて、英文で発表された。政治経済の現場のみならず、研究テーマとしてアカデミアからの大きな注目を集める対象として浮上したことをあらわしている。本稿では、こ

のテーマに関する学術的研究の国際的動向を読み解くことを目的とする。

まず、一帯一路の英語名について用語整理をしておきたい。一帯一路が発表された2013年当初の英語報道では、**One Belt One Road (OBOR)**が多く見られたが、本稿の分析対象となっている2018－2019年の英語学術論文においては、**Belt and Road Initiative (BRI)**が最も多く用いられて一般的となってきた。OBORを使用しているのは、MPM誌掲載のRuan et al (2018)とInternational Critical Thought誌掲載のSiddiqui (2019)の2本であり、Economic and Political Studies誌掲載のTravis Selmier II (2018)論文は、BRIを使用しながら、OBORとも呼ばれると記している。

大谷(2017)においては、現代のシルクロードとして、陸上の「シルクロード経済ベルト」と「21世紀海上シルクロード」を紹介したが、2018年には「氷のシルクロード」として北極圏にも積極的な拡大への関心が示されることもあったが、その後、あまり氷のシルクロードは出てきていない。

さらに、一帯一路の一部を示す特定の領域にも名称がつけられており、例えば、中国－インドシナ半島経済回廊(**China-Indochina Peninsula Economic Corridor: CIPE (Corridor)**) (Qiu et al., 2018)、中国－パキスタン経済回廊(**China-Pakistan Economic Corridor: CPEC**) (Rafiq, 2019)などがある。また、関連する地域として、湾岸協力会議(**Gulf Cooperation Council: GCC**) (Ghaffar, 2018)も登場する。

2. 研究方法

研究方法としては、2018年と2019年に刊行された34本の英文論文のレビューを主に行い、欧州や中国でのセミナー報告も併せて、考察を行う。2017年以前に発表された論文を排除しているわけではなく、2013年に習近平が使ってから、政治的スローガンとして使われていたものの、2017年時点で、国際誌における学術論文のタイトルやキーワードとしては用いられていないからである。そして、世界はコロナ禍にはいり、人の移動と交流を促す一帯一路は、しばらく影をひそめることになる。本稿では、世界がコロナ禍に入る前の、勢いのいい「一帯一路」時代に絞って対象刊行年を区切ることとする。分析対象となる「一帯一路」を扱った英語による学術論文の内訳を表1に示す。2018年刊行が17本、2019年刊行が17本となっている。さらに、学会誌ごとの内訳をみると以下のようになっている。Social Sciences in China誌掲載論文3本、Maritime Policy and Management誌掲載論文11本、Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies誌掲載論文7本を含む。

表1 一帯一路を扱った英語の学術論文を掲載したジャーナル（2018-19年刊行）のリスト

ジャーナル名（編集事務局・刊行団体）	本数	SSCI
Maritime Policy and Management	11	○
Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies （上海外国語大学）	7	—
Social Sciences in China（中国社会科学雑誌社）	3	—
Journal of Contemporary China	2	○
Asian Affairs（英国王立アジア問題協会：RSAA）	2	—
Economic and Political Studies	2	—
Journal of Contemporary East Asia Studies（早稲田大学）	1	—
International Journal of Digital Earth	1	—
Transportmetrica A: Transport Science（香港運輸学協会）	1	○
Big Earth Data	1	○
Transnational Corporations Review	1	—
Chinese Journal of Communication （香港中文大学中国報道比較コミュニケーション研究中心）	1	○
International Critical Thought（中国社会科学学院）	1	—

中国では SSCI (Social Sciences Citation Index) に掲載された論文に掲載されることが評価基準となっており、研究者の昇任人事などにも重要とみなされている（大谷，2016）。これら 13 の雑誌のうち、Maritime Policy and Management 誌、Journal of Contemporary China 誌、Transportmetrica A: Transport Science 誌、Big Earth Data 誌、Chinese Journal of Communication 誌の 4 誌が SSCI のカテゴリーとなっている。そのうち、Transportmetrica A: Transport Science 誌は香港運輸協会の刊行する雑誌であり、Chinese Journal of Communication 誌は香港中文大学中国報道比較コミュニケーション研究中心の刊行する雑誌である。SSCI ではないからといって学術誌としての価値が下がるわけではなく、なぜ SSCI に掲載された論文に評価を限るのかについてはいろいろな議論もなされている。Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies 誌は上海外国語大学が、Social Sciences in China 誌は中国社会科学雑誌社が、Asian Affairs 誌は英国王立アジア問題協会 (RSAA) が、Journal of Contemporary East Asia Studies 誌は早稲田大学が、Transnational Corporations Review 誌はカナダの Denfar Transnational Development 社が、International Critical Thought は中国社会科学学院が、それぞれ編集事務局を置き刊行しているものである。

これらの 13 誌すべて英文雑誌であるが、Social Sciences in China 誌は 中文の抄録がつく。論文の著者は、中国名（普通語）の著者のみの論文は 10 本、中国名の著者とそれ以外の著者との共著論文は 7 本、その他の名前の著者による論文は 15 本である。香港など普通語以外の中華系の名前、韓国名、トルコ、パキスタン、イラン、エジプト、欧州、アフリカなどの名前があり、一帯一路が広がっていることを反映しているかのようであ

る。

所属する大学としては、著者が中国名であっても中国の大学、オーストラリアやカナダの大学などとなっている。ランキング・ビジネスにおいて、国際共著論文のほうの評価はあがることになっているが、名前ではなく所属先の大学が国際共著となっているかの判断基準となっている。著者の元の出身と大学のある国、また著者の名前と国籍が必ずしも一致するわけではなく、著者の国籍などは発表論文からはわからない。著者が韓国人名であっても、英国の大学の所属であったり、外国人名の所属する大学・研究所は、韓国、香港、台湾、フィリピン、シンガポール、スリランカ、ネパール、インド、イラン、バーレーン、ポーランド、オランダ、英国、南アフリカ共和国、オーストラリア、米国、アルゼンチンと広い地域に及ぶ。上海外国語大学で研究するエジプト人研究者らと中国人指導教員による共著論文もある。

一帯一路に関するワークショップを開催し、刊行している論文もある。たとえば、オーストラリアで開催された *Constrained Connectivity: Geopolitics, Culture and Migration in Xinjiang and beyond under the Belt and Road Initiative*” symposium hosted by La Trobe University, August 2-3, 2018. がある (Clark, 2019)。

3. 中国において英語論文を増産する背景

中国は、科学技術強国として国力を示すことができるひとつの有効な目標として、中国のトップ大学を世界のトップ大学とすることを重視して、研究力を上げ、研究成果を出すこと、また、沿海地方だけでなく西部の大学についても世界トップレベルを目指すとしてインフラにも巨額を投資している。世界大学ランキング・ビジネスにおいて、ランキングをあげるために一つの要件として高等教育のグローバル化があり、そのために留学生の増加、さらには外国人教員・研究者の割合をあげることもひとつの目標となっている。中国政府も奨学金などをつけて中国の各大学における留学生の受け入れも増やしてきた。ここでも、「一帯一路」政策により、さらに留学生の数は急増している。また、大学キャンパスのインフラ投資・新キャンパス造成もすすめられており、これも世界大学ランキングアップに大きく貢献しているなど、学術分野における「一帯一路」政策の影響が大きく見られる (大谷, 2017)。大学卒業後・留学後の就職先というのは、学生たちにとって大きな関心事となるところ、一帯一路沿線国から中国へ留学する留学生たちは卒業後、その語学力も活かしながら、一帯一路において生じるさまざまなビジネスにおいて雇用される。中国の大学における人口学研究中心・移民研究というのは、国内における流動人口・農民工に関する研究が主流であったが、この1, 2年で、中国の大学に留学してくる南アジア・中東・アフリカなどからの急増する留学生に関する研究が喫緊の研究テーマとして浮上し、国際ワークショップなどが開催されるようになっている。

4. 一帯一路のもとに取り上げられる研究テーマに関する分析と考察

「一帯一路」は、2013年に習近平国家主席によって発表されたが、突然でできたものともいえず、鄧小平氏の「先富起来！（先に裕福になれ！）」（1985年頃からの先富論）の下、中国東部沿海地方の経済発展、そして、拡大する国内格差に対応して、江沢民政権の2000年からの「西部大開発計画」からの流れとも捉えることができ、延長上にあるともいえよう。それでもなお、「一帯一路」を唱えることによって、グローバルなうねりとなり、新たに注目を浴びるようになったテーマが議論されるようになってきており、これまでの中国国内に限らないそのテーマの性質からも、一帯一路の沿線に限らない国際社会の注目を浴びるようになってきている。

「一帯一路」イニシアティブが注目を浴びる時代には、時期を同じくして欧州で見られるBREXIT（イギリスの欧州連合離脱）の動きやアメリカのトランプ大統領が掲げる「アメリカ・ファースト」などに象徴される自国第一主義の台頭の時代とも重なっている。その流れに乗って、「一帯一路」を政治情勢の脅威とみなす論調もあれば、機会と見なす論調も多い¹⁾。たとえば、2016年6月の習近平首席によるポーランド訪問時には楽観主義がピークに達するものの、その半年後、2017年1月にポーランドの前国防長官が一帯一路の一部となるロジスティックスの封鎖を決定すると緊張が起こるといった例もある（Pendrakowska, 2018）。各国が分断する時流のなかで、一帯一路は各地域を分断でなく統合する政策なのか。格差が進む中で、取り残される地域に経済チャンスをもたらす「誰も取り残さない政策」、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に即したもののなのか（Jin, 2018）。そこには、デジタルシルクロード（DBAR）プログラムといった議論もある（Guo et al., 2018）。DBRDについては、中国のインターネット企業であるアリババとその世界貿易イニシアティブである電子世界貿易プラットフォーム（eWTP）を例にしてポスト構造主義的談話理論を用いて分析している論文（Seoane, 2019）もある。デジタル貿易によりますますグローバル化はすすんでいる。これからの現場での動きを見つめていくことが重要である。

2017年6月、日中社会学会第29回大会開催校主催シンポジウムにおいて行った報告を『日中社会学研究』第25号（2017）において「シルクロードの開発政策「一帯一路」イニシアティブ」（特集論文）として寄稿したときには、陸と海のシルクロード、すなわち、陸の「シルクロード経済ベルト」と海の「21世紀海上シルクロード」を示したが、その後、2017年11月1日に習近平国家主席が、北京を訪問したロシアのメドведеフ首相と会談した際に、ロシアと共同で北極海航路の開発・利用協力を推進し、氷のシルクロードをつくりあげなければならない、と強調している。これは、5月に北京で開催された一帯一路に関する国際会議でロシアのプーチン大統領が一帯一路と北極海航路を連結させるよう提案したことを受けている。さらに、2018年1月26日に発表された中国の北極開発の基本政策をまとめた白書では、中国は北極の重要な利害関係者であると宣言し、

「一帯一路」を北極圏に拡大し、「氷のシルクロード」の建設が表明された。地球温暖化に伴う解氷が進むと新たな海上ルートとなる可能性もある。しかし、その後、特に注目されていない。ロシアを含め北極圏の国々の中国進出への警戒もあり、曲折も予想される。2019年刊行までの学術論文においてはまだ氷のシルクロードを取り扱ったものは見当たらない。

抄録において新疆について言及、すなわち、重視している論文が 3本あり、著者はどれも中国人ではない。シルクロードとして、中国国内では歴史的にも新疆が重要な地域として浮かび上がるはずであるところ、本数から言えば少なく見える。これは、センシティブな地域について書くことを控えているからなのか、中国国内よりさらに中国国外に関心の対象が向けられているからとも考えられる。

Maritime Policy and Management 誌では、海上シルクロードの例を取り上げている論文が見られる。例えば、ワインの物流研究として上海、天津、広州、香港の海上輸送が北京や重慶の長距離大陸間輸送よりも配送コスト面からも適切としている (Lau et al., 2018)。また、中国浙江省の寧波・舟山港 (Ruan et al., 2018)、天津港 (Wang et al., 2018)、スリランカのコロombo港 (Ruan et al., 2019)、さらには、アフリカの港も含めたモデルが論じられている (Liu et al., 2018)。MPM 誌では、海上に限定せずとも、輸送を取り扱っている例として、韓国から中央アジアのルートについて論じている論文もあり、韓国の仁川から中国の青島、カザフスタンのホルゴスさらにアルマティへのルートを推奨している (Wang&Yao, 2018)。韓国は、1991年のソビエト崩壊を機に、同胞である高麗族を頼って、カザフスタンとウズベキスタンへの市場開拓を進めてきた実績がある。韓国産の自動車の例 (Woo et al, 2018) として当地の市場における日本車中古車と置き換わっていった経緯がある。

ドイツの技術と中国製を組み合わせた新たなインテリジェント製造として、第一次世界大戦前にドイツ領であった山東省とドイツとの産業協力の例 (Shucun & Chuntai, 2019) も報告されている。あるいは、沿線の国には、物流だけでなく、技術や製造産業の恩恵を受けたいと、一帯一路のもたらす機会に期待をしている側面もある。先に述べた SDGs の枠組みとして、取り残されないように期待もされている。

中国政府が力を入れるのは資源や製造業だけではなく、文化産業と観光産業も重要な分野として、一帯一路地域沿いの国々との協力の基礎造りをし、中国市場を積極的に開拓する動きがみられる。たとえば、2018年には、トルコ観光年が中国で開催されている (Niu&Li, 2019)。そこにも、言語ニーズが生まれ、バイリンガルの就業機会が創設される。中国の大学における移民研究は、これまで国内の労働移民、流動人口、すなわち、農民工に関する研究が主流であったが、「一帯一路」にあわせて、にわかに、国際的な人の移動に関する研究が必要に迫られて、研究がされるようになってきている。それは、一帯一路により、アフリカやアラブ諸国から中国への留学生が急増しているということである。留学後は、一帯一路に沿った地域で必要なバイリンガル人材として就業の機会があ

るとのことである。

アフリカでは、植民地時代から続くヨーロッパの旧宗主国との関係や構造に中国との新たな関係がどのような発展と機会をもたらすかへの期待、たとえば、植民地時代の鉄道が沿岸に向けて引かれたなどの例に見られる植民地経済を支えるインフラストラクチャーではなく、より広範囲の発展に展開することを期待している (Ndzendze & Monyae, 2019)。

「一帯一路」イニシアティブによって新たな注目を浴びるようになったテーマとして、「イスラムとの出会い」がある。論じられている論文もパキスタン、イラン、エジプト、トルコなどがある。しかし、中国国内にはすでにイスラム少数民族は多く、歴史的に、シルクロードに沿った宗教と貿易の相互作用はイスラム教の拡大を促進してきただけでなく、中国とイスラム世界との間の緊密な関係を発展させてきた事実がある (Li, Fuquan, 2018)。新たに、現代シルクロードでは、中国のイスラム教徒によるイスラム金融の発展とハラール食品の生産における役割を論じている。また、カザフスタン、パキスタン、イランを例として、一帯一路がイスラム経済学の現代的見方の違いにより浮かび上がる課題について論じている (Travis Selmier II, 2018)。イスラム金融・経済についても、一帯一路が唱えられる前から注目を浴びはじめていたテーマであると言える。

5. おわりに

2013年に習近平首席によって発表された「一帯一路」政策は、世界中の報道でも取り上げられ、政治経済、産業、貿易のニュースで注目を浴びてきたが、本稿では、さらに、学術論文としても新たな研究テーマとして取り上げられるようになり、2018年以降、関連の様々な分野で英語論文が発表されるようになってきていることを明らかにした。本稿ではまた、その内容においても分析をし、それによって、中国の学術界での英語論文の発表と世界大学ランキング・ビジネスの背景についても考察を行った。一帯一路という政策名を冠しなくてももともと研究テーマとなっていたものに一帯一路を冠したのもあるが、一帯一路を冠することが時流、また潮流ともなっていると言えよう。中国の研究者だけでなく、一帯一路に沿った国や地域の研究者たちの論文発表の機会ともなっている。ここにも、一帯一路による議論の幅の広がりや展開が期待できる現象を引き起こしているともいえる。

本稿では、一帯一路を扱った英語の学術論文が刊行されるようになった2018年と翌年の2019年に発表された論文を対象を絞って分析を行ったが、2020年には、さらに、グローバル化の進む中、一帯一路政策により、さまざまな国や地域との交流や関係が深まることにより新たな課題も浮かび上がってくるであろう。2020年1月から世界中の関心を集めている新型コロナウイルス感染症の影響についても、論考が発表されることも予測できる。

注

- 1) 2019年4月27日から29日にかけて、北京で「一帯一路」をめぐる国際会議が開催された。報道の関心は、中国政府が主導する地域経済協力枠組みが果たして国際的なルールに則ったものであるかどうか、とりわけ中国はインフラを担保に財政支援を行うことで途上国を「債務の罠」に陥れていないかといった点に集中した。園田 (2019) は、こうした懸念が世界で共有されているかと言えば、必ずしもそうとはいえない。肯定的な評価をしている国家群とそうでない国家群にわけた調査を紹介し、日本は後者となっている。ただ、前者の国家群については、中国に対等にものが言える国なのか、経済的にすでに頼るしかなく肯定するしかない国がほとんどである可能性も否定できない。これらの他の国からの見方に対して、中国の指導者も発言を繰り返している。たとえば、2019年11月27日に大阪で開催された第6回日中教育交流会の日中関係フォーラムにおいて、劉江永清華大学国際関係研究員教授は、その「岐路に立つ世界と日中の在り方」と題した講演において、習近平国家主席の導きは素晴らしく、中国は世界諸国と組んで「一帯一路」を築き、人類の幸福に貢献し、国際社会において弱肉強食の覇権主義に力強く反対するものであると述べている。中国の推進する一帯一路イニシアティブが世界平和と繁栄に貢献する偉大なイニシアティブであることを強調し、中国主導の一帯一路に対する懸念の払拭を試みている。なお、この日中教育交流会の日中学長フォーラムでは、唐伯明重慶交通大学学長が、「一帯一路構想による中国交通の発展と国際協力」と題して講演しており、西部の交通の発展が推進されていることが報告されている。
- 2) 34本の英語論文のうち、本稿で直接引用していないため、参考文献一覧にあげられていないものは、以下である。

Iski, Ahmet Faruk. & Zou, Zhiqiang (2019) China-Turkey Security Cooperation Under the Background of the 'Belt and Road' and the 'Middle Corridor' Initiatives, *Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies*, 13:2, 278-293, DOI: 10.1080/25765949.2019.1605572

Kundu, Tanmoy. & Sheu, Jiuh-Biing. (2019) Analysing the effect of government policy intervention on cross-border freight transportation flows: the Belt and Road perspective, *Transportmetrica A: Transport Science*, 15:2, 1360-1381, DOI: 10.1080/23249935.2019.1594448

Lee, Paul Tae-Woo., Hu, Zhi-Hua., Lee, Sang-Jeong., Choi, Kyoung-Suk. & Shin, Sung-Ho. (2018) Research trends and agenda on the Belt and Road (B&R) initiative with a focus on maritime transport, *Maritime Policy & Management*, 45:3, 282-300, DOI: 10.1080/03088839.2017.1400189

Li, Ainong., Deng, Wei., Zhao, Wei., Liu, Bintao, Zhang, Jianqiang., Kong, Bo., Nan,

- Xi., Bian, Jinhui., Koirala, Hriday Lal. Gilani, Hammad., Sati, Vishwambhar Prasad., Gomes, Pattiyage I. A. & Khanal, Narendra Raj. (2018) A geo-spatial database about the eco-environment and its key issues in South Asia, *Big Earth Data*, 2:3, 298-319, DOI: 10.1080/20964471.2018.1548053
- Li, Xiangyang (2019) The “Absence” of Asian Regional Economic Integration and the Development Orientation of the Belt and Road, *Social Sciences in China*, 40:1, 132-147, DOI: 10.1080/02529203.2019.1556484
- Pantucci, Raffaello. (2019) China in Central Asia: The first strand of the Silk Road economic belt, *Asian Affairs*, 50:2, 202-215, DOI: 10.1080/03068374.2019.1622930
- Sevilla, Henelito A. (2019) The Turbulent Middle East: Analysing Security Issues facing China’s Belt and Road Initiative towards the Region, *Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies*, 13:2, 195-210, DOI: 10.1080/25765949.2019.1605567
- Shariatnia, Mohsen & Aziai, Hamidreza (2019): Iran and the Belt and Road Initiative: Amid Hope and Fear, *Journal of Contemporary China*, DOI: 10.1080/10670564.2019.1594108
- Sharma, Anu (2019) An Analysis of ‘Belt and Road’ Initiative and the Middle East, *Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies*, 13:1, 35-49, DOI: 10.1080/25765949.2019.1586179
- Soliman, Mahmoud Ahmed Mohamed Mohamed & Zhao, Jun (2019) The Multiple Roles of Egypt in China’s ‘Belt and Road’ Initiative, *Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies*, 13:3, 428-444, DOI: 10.1080/25765949.2019.1630580
- Wei, Hairui., Sheng, Zhaohan. & Lee, Paul Tae-Woo. (2018) The role of dry port in hub-and-spoke network under Belt and Road Initiative, *Maritime Policy & Management*, 45:3, 370-387, DOI: 10.1080/03088839.2017.1396505
- Zhang, Shuzhu., Ruan, Xiao., Xia, Yuezhong. & Feng, Xuehao (2018) Foldable container in empty container repositioning in intermodal transportation network of Belt and Road Initiative: strengths and limitations, *Maritime Policy & Management*, 45:3, 351-369, DOI: 10.1080/03088839.2017.1400699
- Zhao, Xudong (2019) The Belt and Road and the Rediscovery of Reciprocity-Based Anthropology, *Social Sciences in China*, 40:1, 171-185, DOI: 10.1080/02529203.2019.1556488

参考文献

[英語文献]

- Clarke, Michael (2019): Beijing’s Pivot West: The Convergence of *Innenpolitik* and *Aussenpolitik* on China’s ‘Belt and Road’?, *Journal of Contemporary China*, DOI:

10.1080/10670564.2019.1645485

- Ghaffar, Mahmood Muhammad Abdul. (2018) Strategic Development of Sino-GCC Relations: Visions of Arabian Gulf Economic Development and the Belt and Road Initiative, *Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies*, 12:4, 517-532, DOI: 10.1080/25765949.2018.1562595
- Guo, Huadong., Liu, Jie., Qiu, Yubao., Meneti, Massimo., Chen, Fang., Uhler, Paul F., Zhang, Li., van Genderen, John., Liang, Dong., Natarajan, Ishwaran., Zhu, Lanwei. & Liu, Jiuliang. (2018) The Digital Belt and Road program in support of regional sustainability, *International Journal of Digital Earth*, 11:7, 657-669, DOI: 10.1080/17538947.2018.1471790
- Jin, Ling (2018) Synergies between the Belt and Road Initiative and the 2030 SDGs: from the perspective of development, *Economic and Political Studies*, 6:3, 278-292, DOI: 10.1080/20954816.2018.1498990
- Lau, Yui-yip., Tam, Ka-chai., Ng, Adolf K. Y., Fu, Xiaowen., Zhang, Jing & Feng, Jiejian. (2018) Effects of the 'Belt and Road' initiative on the wine import logistics of China, *Maritime Policy & Management*, 45:3, 403-417, DOI: 10.1080/03088839.2017.1405291
- Li, Fuquan. (2018) The Role of Islam in the Development of the 'Belt and Road' Initiative, *Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies*, 12:1, 35-45, DOI: 10.1080/25765949.2018.1439617
- Liu, Chengliang., Wang, Jiaqi. & Zhang, Hong. (2018) Spatial heterogeneity of ports in the global maritime network detected by weighted ego network analysis, *Maritime Policy & Management*, 45:1, 89-104, DOI: 10.1080/03088839.2017.1345019
- Ndzendze, Bhaso. & Monyae, David. (2019) China's belt and road initiative: linkages with the African Union's Agenda 2063 in historical perspective, *Transnational Corporations Review*, 11:1, 38-49, DOI: 10.1080/19186444.2019.1578160
- Niu, Song. & Li, Nianci (2019) Sino-Turkish Tourism Cooperation under the Framework of the Belt and Road Initiative, *Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies*, 13:3, 445-461, DOI: 10.1080/25765949.2019.1630581
- Pendrakowska, Patrycja (2018) Poland's perspective on the Belt and Road Initiative, *Journal of Contemporary East Asia Studies*, 7:2, 190-206, DOI: 10.1080/24761028.2018.1552491
- Qiu, Xuan., Wong, Eugene Y.C. & Lam, Jasmine Siu Lee (2018) Evaluating economic and environmental value of liner vessel sharing along the maritime silk road, *Maritime Policy & Management*, 45:3, 336-350, DOI: 10.1080/03088839.2018.1437285
- Rafiq, Arif. (2019) The China-Pakistan economic corridor: The lure of easy financing and the perils of poor planning, *Asian Affairs*, 50:2, 236-248, DOI: 10.1080/03068374.2019.1602384
- Ruan, Xiao., Bandara, Yapa Mahinda., Lee, Jun-Yeop., Lee, Paul Tae-Woo & Chhetri, Prem. (2019) Impacts of the Belt and Road Initiative in the Indian subcontinent

- under future port development scenarios, *Maritime Policy & Management*, DOI: 10.1080/03088839.2019.1594425
- Ruan, Xiao., Feng, Xuehao & Pang, Kelvin. (2018) Development of port service network in OBOR via capacity sharing: an idea from Zhejiang province in China, *Maritime Policy & Management*, 45:1, 105-124, DOI: 10.1080/03088839.2017.1391412
- Travis Selmier II, W. (2018) The Belt and Road Initiative and the influence of Islamic economies, *Economic and Political Studies*, 6:3, 257-277, DOI: 10.1080/20954816.2018.1498989
- Seoane, Maximiliano Facundo Vila (2019): Alibaba's discourse for the digital Silk Road: the electronic World Trade Platform and 'inclusive globalization', *Chinese Journal of Communication*, DOI: 10.1080/17544750.2019.1606838
- Siddiqui, Kalim (2019) One Belt and One Road, China's Massive Infrastructure Project to Boost Trade and Economy: An Overview, *International Critical Thought*, 9:2, 214-235, DOI: 10.1080/21598282.2019.1613921
- Wang, Chuanxu., Chen, Qian. & Huang, Rongbing (2018) Locating dry ports on a network: a case study on Tianjin Port, *Maritime Policy & Management*, 45:1, 71-88, DOI: 10.1080/03088839.2017.1330558
- Wang, Ying. & Yeo, Gi-Tae (2018) Intermodal route selection for cargo transportation from Korea to Central Asia by adopting Fuzzy Delphi and Fuzzy ELECTRE I methods, *Maritime Policy & Management*, 45:1, 3-18, DOI: 10.1080/03088839.2017.1319581
- Woo, Su-Han Woo., Kim, Sun-Nam., Kwak, Dong-Wook., Pettie, Stephen & Beresford, Anthony (2018) Multimodal route choice in maritime transportation: the case of Korean auto-parts exporters, *Maritime Policy & Management*, 45:1, 19-33, DOI: 10.1080/03088839.2017.1344783
- Zhang, Shucun & Gu, Chuntai (2019) China-Germany Industrial Cooperation in the Context of the Belt and Road Initiative—An Analysis Focusing on Shandong Province, *Social Sciences in China*, 40:1, 148-170, DOI: 10.1080/02529203.2019.1556486

[日本語文献]

- 大谷順子 (2016) 「高等教育のグローバル化に目覚めた中国」, 石川真由美編 『世界大学ランキングの知の序列化: 大学評価と国際競争を問う』 京都大学学術出版会 (第7章 217-240頁)
- 大谷順子 (2017) 「シルクロードの開発政策「一帯一路」イニシアティブ」『日中社会学研究』第25号 37-43頁
- 園田茂人 (2019) 「中国台頭の国際心理—アジア域内の温度差をめぐって—」『社会学評論』日本社会学会 第70巻第3号 264-283頁
- 国立研究開発法人科学技術振興機構・中国総合研究・さくらサイエンスセンター (2019)『一帯一路の現況分析と戦略展望』

International academic rising trends in research on China's Belt and Road Initiatives

Junko OTANI

In June 2017, the 29th Japan-China Sociological Studies National Convention was chaired at Osaka University. As the chairperson, I reported on the "Road and Belt for the modern Silk Road: China's strategic initiatives in the era of globalization," at the symposium organized by the host school, "Social change in the Silk Road in China." This report was published as one of the special articles in the 25th issue of the "Journal of Japan-China Sociological Studies" in October 2017. In addition to the "One Belt, One Road" media coverage, academic articles on the topic are now being published. This study aims to review the rising international trends in academic research on the Belt and Road Initiative. To this end, I analyzed 34 English-language papers published between 2018 and 2019 before the world was plunged into the COVID-19 pandemic. The scope of the study area extends from Eurasia to Africa. Disciplines covered in the study include sociology, policy science, anthropology, and political economy. The "One Belt, One Road" initiatives has not only become a hot topic in political economy but has also received considerable attention from academic researchers.

Keywords: Belt and Road Initiatives (BRI), One Belt One Road (OBOR), international trends